

日本の石仏 2012 冬

No.144

冬

特集▶役行者・蔵王権現

- ◆蔵王権現と座王大権現 時枝 務
- ◆蔵王権現と役行者 中上 敬一
- ◆飯道山山麓役行者石像と
行者講・大峰講について 黄瀬三朗・関谷和久
- ◆山梨県北杜市内の役行者石像 佐藤勝廣
- ◆福井県の役行者・蔵王権現 北村市朗
- ◆越中・飛騨の役行者石像と蔵王権現 平井一雄
- ◆役行者 伝承の地を尋ねる 井戸 寛
- ◆役行者・蔵王権現 三題 嘉津山清
- ◆東北の山岳にみる蔵王権現 田中英雄



日本の石仏 2012 No.144 ◆冬

特集▶役行者・蔵王権現

発売◆青林書房



ISBN978-4-7906-0306-1
C1039 ¥2100E



定価(本体2,100円+税)

信州石工 出羽路旅稼ぎ記

木村博・加藤和徳・市村幸夫／著

青林書房刊

高遠石工は信州石工とも呼ばれ、高い技術を持っていた。高遠藩は藩財政のため石工にたいし出稼ぎを勧めた。その結果、彼らは遠い出羽の国まで出稼ぎにきている。信州石工としては最北端の地である。高遠には出羽国へ出かけた資料が残されていない。山形として出稼ぎ石工の記録はあまり多くない。



出羽の国山形で彼らほどんな仕事をしたのか。山形に何を残そうとしたのか。彼らの遺した石造物や伝承を丹念に調査し、克明に追及した労作。山形県における高遠石工の活動の全てを明らかにする。県内の高遠石工路のある村山をめぐります。

越中・飛驒の役行者石像と蔵王権現

平井一雄

修験道の始祖を役行者（役小角）「えんのぎょうじや・えんのおつゑ」という。小角は一宗一派の團祖と異なり、一個の教義を唱導宣撫したのではない。小角につづく人々がその超人的な山岳修行と抜群の呪法験能力を感嘆し、修験道の始祖と讃仰するに至ったのである。

当時、奈良朝において私度僧、優婆塞的で有名な行基菩薩の活動もあり、後世の修験道的な背景は充分あったのである。役行者が修験の始祖と仰がれる最大の理由は、吉野金峰山より熊野三山に至る大峰山を開山して大道場と定め、さらに葛城山脈の縦横を開いて行場となし、修験道を榮祥したことにある。

彼が大峰の絶頂、山上々岳において天地震動の中に忿怒降魔の形相にて湧出せる金剛蔵王権現を感得し、感激贊嘆し鎮護国家救世済民の本尊としたと伝えられる。さらに四国の諸山を踏破し、蔵王権現、弥勒菩薩、観世音菩薩を奉祀して開

山したともいわれている。

今日、役行者が開山した、あるいは修行來山したと伝える靈山は全国に及ぶ。越中の立山、加賀の白山、駿河の富士山もその中に含まれる。

越中・飛驒の役行者と蔵王権現を別表一覧表にまとめてみた。

それによると、役行者の石像は飛驒に数多く分布していることがわかった。建立場所から見ると、険阻な旧街道の危険な難所の行路安全を祈願したものと考えられる。また、この地方は早くから鉱山の開発が進み、山師などの持つ修験者の信仰が広まり、山の神や塞の神（道祖神）とも共通する信仰の石造物が多く存在するようになったと考えられる。

一方、蔵王権現は、石造物より早く神社の御神体となったため目に触れる機会がなくなつたのではなからうか。

田大沢野町吉野の蔵王社は、吉野・吉金の鉱山の鎮守とし

越中・飛騨の役行者と蔵王権現

越中・飛騨の役行者一覧表

No.	所在地	形態	高×幅	銘文	造立年代刻字	西暦	所在地	写真No.
1	立山	丸彫	49×25				一の谷「獅子ヶ鼻」	①
2	大山町	丸彫	42×26				大田寺境内八十八所表	
3	立山町石坂	丸彫	30×25	仙久■			石坂交差点から白岩道添い	②

富山県神岡町の役行者一覧表

『神岡の石仏第4集』より

No.	所在地	形態	高×幅	銘文	造立年代刻字	西暦	所在地	写真No.
1	土	舟型	49×27				旭観音堂境内	
2	土	文字碑	40×33	役行者			旭観音堂境内	
3	佐古	舟型	47×28				常盤神社境内	
4	越津川	舟型	47×24	越津川村	明治五年申六月吉日	1872	有峰道入口山手	
5	牧	文字碑	40×30	奉請 役行者	嘉永三戊午	1850	白山下道添い川側	
6	牧	浮彫					役行者(彩色、前鬼・後鬼)	③
7	牧						現在の行者堂	④
8	牧						行者堂と御詠歌額	
9	新石	舟型	62×30				越中中街道祠堂	
10	西漆山	舟型	41×29	漆山村中	天保十一年八月五日	1840	越中中街道ニツ屋間向かい	
11	麻生野	舟型	62×30				国道471号線松田家前山側	
12	鹿見	舟型	46×34				鹿見谷地藏堂横	⑤

富山県上宝町の役行者一覧表

『かみたからの石仏を訪ねて』より

No.	所在地	形態	高×幅	銘文	造立年代刻字	西暦	所在地	写真No.
1	倉殿	丸彫	46×28				金山峠道中腹	
2	上瀬	文字碑	76×46	役行者			谷戸橋脇	
3	長倉	舟型	48×29				桂峯寺山門下(旧御道より移動)	
4	細越	舟型	59×33	古橋中林・又六・八越	文政十三三月吉日	1830	細越集落道路脇	
5	新山	丸彫	40×17		弘化二年三月廿七	1845	旧街道脇	
6	笹島	舟型	51×30				旧車道脇	
7	笹島	舟型	61×33		安永三甲午年九月日	1774	旧車道脇	
8	神坂	舟型	66×41	奉納	文政十	1827	県道脇×岳線脇	⑥
9	神坂	舟型	60×32				県道脇×岳線脇	

富山県丹生川の役行者一覧表

『丹生川村史』より

No.	所在地	形態	高×幅	銘文	造立年代刻字	西暦	所在地	写真No.
1	沢上	丸彫	67×26				平金鉱山学校跡地近く登山道	
2	千光寺	文字碑	45×29				八十八所八十八番の左祠堂内	

富山県小矢部市の蔵王権現

『小矢部市ふるさとの石仏第5集』より

No.	所在地	形態	高×幅	銘文	造立年代刻字	西暦	所在地	写真No.
1	松尾	浮彫	88×30		祠堂刻銘 大正11年		松尾たご山(丹後山)	⑦



④ 飛騨市神岡町牧 行者堂 (現)



⑤ 飛騨市神岡町瀧見の役行者



⑥ 高山市上宝町神坂の役行者



⑦ 小矢部市松尾だご山の蔵王権現



① 立山一の谷獅子ヶ鼻の役行者
(佐藤武彦氏 提供)



② 立山町石坂の役行者



③ 飛騨市神岡町牧の役行者

